学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター
JOSAI INTERNATIONAL CENTER
for the Promotion of Art and Science
(JICPAS)

Newsletter

Josai University Educational Corporation
3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.17
(2013.9.30 発行)

学校法人 城西大学
〒 102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
☎ 03-6238-1300
http://www.josai.jp/

国際交流活動

国際交流活動

城西国際大学、城西大学で秋期入学式を挙行、世界各国から留学生が入学

日時：2013年9月11日、9月21日
場所：城西国際大学千葉東金キャンパス、城西大学坂戸キャンパス

2013年9月11日に城西国際大学の入学式が、また9月21日に城西大学の入学式が挙行されました。本学は人間教育、人材育成を基礎として、地域社会、そして国際社会でリーダーシップをとるための視野と能力を磨く海外教育プログラムの推進を目指して、世界21か国107大学と協同し、教育と研究を進めてまいりました。今年よりASEAN諸国、香港、そして中欧ヨーロッパからはポーランドの4大学、チェコの3大学との教育交流が新たに始まりました。

城西国際大学には、中国、台湾、韓国、ノルウェー、ハンガリー、アメリカ、カナダ、スペイン、ブラジル、フランス、インド、タイ、コロンビア、チュニジア、マカオからの学生に加えて、今年は初めてポーランドから11名、チェコから2名の学生が加わり、世界17か国からの学生がこの良き日を迎えました。

城西国際大学秋季入学式の様子

城西国際大学入学式後の学友会で歌うハンガリーからの留学生

城西大学には、ハンガリーのエトヴェシュ・ロラーンド大学（Eötvös Loránd University）をはじめとする7大学から8名、ポーランド共和国のワルシャワ大学（University of Warsaw）から2名、中国の大連理工大学（Dalian University of Technology）から2名、大連外国語大学（Dalian University of Foreign Languages）から31名、韓国の東西大学（Dongseo University）から3名の学生が希望とともに入学してきました。

ハンガリー語を勉強している1千名近くの日本人学生も留学生の来学を心から歓迎しています。今年からはポーランド語とチェコ語の授業も始まり、国際性がさらに豊かになっています。本学においては秋季入学式、卒業式が定着し、本学学生の海外留学、そして海外大学からの留学生の受け入れを経たグローバル教育が進展しています。

城西大学秋季入学式に参列する留学生

国際交流活動

水田宗子ハンガリー・ポーランド・チェコ奨学生表彰式を開催、駐日ポーランド大使館表敬訪問

日時：2013年9月30日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年9月30日、平成25年度水田宗子ハンガリー・ポーランド・チェコ奨学生表彰式が東京紀尾井町キャンパスで行われました。

この奨学金は、2009年12月ハンガリー共和国大統領であるショーヨム・ラースロー（László Sólyom）大統領閣下（当時）が、東京紀尾井町キャンパスを表敬訪問されたことを記念して「水田宗子ハンガリー奨学金」として設立されたもので、ハンガリーと日本の懸け橋となる人材育成を目的にしています。

本学は中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めるなか、特にV4諸国をはじめとする中欧地域との教育交流を強化しています。4年目を迎えた本奨学金は、新たにポーランドとチェコからの留学生を対象に加えて、城西大学・城西国際大学へ留学している3か国からの奨学生を表彰する式として行われました。

4年目となった今年度の表彰式には、ハンガリーのブダペスト商科大学（Budapest Business School）、ブダペスト・コルヴィヌス大学（Corvinus University of Budapest）、セント・イシュトヴァーン大学（Szent István University）、エトヴェシュ・ロラーンド大学（Eötvös Loránd University）、ニーレジハーザ大学（College of Nyíregyháza）、カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学（Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary）、セゲド大学（University of Szeged）、デブレツェン大学（University of Debrecen）から両学への留学生15名、ポーランドのワルシャワ大学（University of Warsaw）、ウッチ大学（University of Lodz）、ポーランド日本情報工科大学（Polish-Japanese Institute of Information Technology）から両学への留学生13名、チェコのカレル大学（Charles University in Prague）、マサリク大学（Masaryk University）から城西国際大学への留学生2名の合計30名が出席しました。

表彰式では、水田理事長からの表彰状授与に続き、各国の学生親善大使が2名ずつ任命され、水田理事長よりたすきが渡されました。日本との文化交流を深める大使としての6人の今後の活躍が大いに期待されます。

その後、各国の奨学生を代表してハンガリーのフェヘール・イシュトヴァーン（Fehér István）さん、ポーランドのチュベック・ヨヴィタ・アグニエシカ（Czubek Jowita Agnieszka）さん、チェコのレザツキ・ダヴィド（Rezazgui David）さんの3名が授与の謝辞および決意表明を行い、本奨学金により安心して勉学に励めることに対し水田宗子理事長および関係者へのお礼とともに、日本に留学する1年間で日本のさまざまな伝統や経済・社会などを学び、日本と3か国の相互理解を一層深めていくことへの力強い決意を述べました。

最後に水田理事長が奨学生に「皆さんは、グローバル人材になるために自国以外の歴史・芸術・文化を積極的に学んでください。そして、日本で得たさまざまな貴重な経験が皆さんのこれからのキャリアに大いに役立つと信じています。また、両学の日本の学生にも良い刺激を与えてください」と励ましの言葉を述べました。

なお、本学では2008年以降、城西大学・城西国際大学両学でのべ2千名の学生が

受賞者の皆さん

親善大使に任命された６人と水田理事長、森本雍憲城西大学学長、石田益実城西国際大学副学長

出席者による記念撮影

ハンガリー語を学んできましたが、この4月からはポーランド語・チェコ語の授業もスタートしており、グローバル教育のさらなる充実を図っています。

また、ポーランドの奨学生13名は、今回の表彰式に先立つ9月26日に、水田理事長らとともにポーランド大使館にてツィリル・コザチェフスキ（Cyryl Kozaczewski）駐日大使を表敬訪問しました。

大使は、ポーランドから本学への初めての留学生となった13名を温かく歓迎してくださり「皆さんの将来の可能性は無限大です。今回の城西大学への留学チャンスを最大限に生かして日本でさまざまなことを学び、体験し、それらを通じて今後のポーランドと日本の懸け橋となるだけでなく、世界に貢献できるような人材に育ってください」と励ましの言葉を贈られました。

その後、奨学生たちは一人ひとり流暢な日本語で自己紹介や留学中の目標を語り、大使も今後の彼らの成長に大いに期待を寄せていました。

名誉学位

名誉学位

水田理事長が大連理工大学より名誉教授を授与

日時：2013年5月27日
場所：大連理工大学、中華人民共和国

2013年5月27日、中国の大連を訪問中の学校法人城西大学水田宗子理事長は、大連理工大学（Dalian University of Technology）より名誉教授を授与されました。

本学と大連理工大学は2007年5月に学術交流協定書を締結しました。そして同年、中国における国際人材育成を目的に〝水田三喜男記念〟水田宗子奨学金の授与を開始し、現在までに約100名の学生が授与を受け、勉学に励んできました。また、同じく2007年に学生たちの学術研究のために「水田記念文庫」を開設し、現在までに9回にわたり累計約770冊の政府刊行物、経済、文化、歴史、自然科学、辞典など多様な本を寄贈しています。さらに、学生のインターンシップ研修派遣・受け入れや、共同研究、シンポジウムの実施など、さまざまな形で学生・教員の交流を積極的に展開してきました。そして、2010年には、大連理工大学、大連外国語学院（Dalian University of Foreign Languages）、東北大学（Northeastern University）と連携して日中連携博士課程を開設し、集中講義を含めて数多くの留学生が本学で学び、この春には初の博士号取得者を輩出しました。

今回の名誉教授授与は、これらの一連の活動を通じた両校の交流に対する水田理事長の貢献・実績が高く評価されたもので、授与式では両大学の関係者が出席する中、大連理工大学の張德祥（Zhang Dexiang）党委書記より水田理事長へ名誉教授証書と大連理工大学のバッジが贈られました。

同大学の名誉教授称号は、世界のさまざまな分野の優れた研究者に授与されており、日本ではノーベル賞を受賞した野依良治先生、鈴木章先生、根岸英一先生らをはじめ、学校法人城西大学の村井隆顧問や井上明久理事長特別顧問（元東北大学総長）らが授与されています。

授与を受け、水田理事長は「大連理工大学と学校法人城西大学との絆と連携教育の深まりと発展を評価いただいてこのような栄誉ある称号を授与いただき、大変光栄です。今後も両校の発展と日中友好の懸け橋となるグローバル人材の育成に力を尽くしてまいります」と挨拶しました。その後、名誉教授授与を記念して、水田理事長が両大学関係者や学生たちを前に「人格形成と多文化共生教育研究」と題した講演会を行いました。

なお、今回の授与により、水田理事長がこれまで他学から受けた名誉学術称号は中国の華南師範大学（South China Normal University）名誉教授（2007年12月）、韓国の東西大学校（Dongseo University）名誉博士（2010年9月）、ハンガリー共和国のセント・イシュトヴァーン大学（Szent István University）名誉博士（2011年6月）、中国の東北大学（Northeastern University）名誉教授（2012年9月）、ハンガリーのブダペスト商科大学（Budapest Business School）特別栄誉教授（2012年11月）に次ぐ六つ目となります。

張党委書記（左）から名誉教授を授与される水田理事長

記念講演の様子

名誉学位

大連理工大学名誉教授授与を祝う会開催

日時：2013年6月14日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年6月14日、「大連理工大学（Dalian University of Technology）名誉教授号の授与をお祝いする会」が東京紀尾井町キャンパス3号棟にて開かれました。

本会は、学校法人城西大学水田宗子理事長が2013年5月27日に中国の大連理工大学より名誉教授を授与されたことを記念して、村井隆学校法人城西大学顧問、井上明久同理事長特別顧問、森本雍憲城西大学学長、柳澤伯夫城西国際大学学長、武富紘人学校法人城西大学事務局長らを発起人として企画されたもので、当日は発起人をはじめ、学内外の関係者や招待者など、約150人が出席してお祝いしました。

大連理工大学は、1949年に創立された全国重点大学で、理工学部だけにとどまらず、経済、商学、中文、外文などの文化系学部も併せ持ち、全日制学生2万4千人を有する中国を代表する大学です。

これまで同大学の名誉教授称号は、世界のさまざまな分野の優れた研究者に授与されており、日本ではノーベル賞を受賞した野依良治先生、鈴木章先生、根岸英一先生らをはじめ、学校法人城西大学の村井隆顧問や井上明久理事長特別顧問らが授与されています。

本学では、2007年度より水田理事長を団長とする訪問団が大連理工大学を毎年継続的に訪問しており、さまざまな交流を図ってきています。2008年には、当時の大連市長の夏德仁（Xia Deren）氏に城西大学より大連理工大学との共同研究である「大連市における大連経済特区の実態調査研究」の成果を手交しました。2011年には埼玉県と共同で、中国市場進出を検討する企業の若手人材育成および、企業誘致を目的とした大連研修プログラムを、翌2012年には「JOSAIグローバル女性人材育成プログラム（JEWEL）」を制定し、大連にて中国進出企業・企業事例の研究に加えて政治、経済、産業等の研修を大連市政府、大連理工大学とともに開催するなどして、大連市ならびに大連地域の経済発展に寄与しました。また教育面においても、城西大学と大連理工大学管理学院との連携によるJMBA制度を通じたレベルの高い経済経営教育の展開や、2010年に本学と大連理工大学、大連外国語学院（Dalian University of Foreign Languages）、東北大学（Northeastern University）との連携により開設した日中連携大学院により大連理工大学にて教職に就かれている日本語教員の博士号取得を促進するなど、顕著な教育効果を挙げました。さらには、多数の留学生の受け入れや、両大学のインターンシップによる学生研修の実施、日中短詩協会の設立、水田桜寄贈による文化活動の促進にも寄与しました。こうしたさまざまな交流を通じて、水田理事長の両学の国際教育発展への多大な貢献・実績が高く評価され、今回の名誉教授授与となったものです。

会の最初に発起人の一人である城西大学福島和伸先生より会の趣旨説明があった後、村井先生より本学と大連との交流の歴史につい

大連市政府日本駐在総代表王新氏のスピーチ

日中連携大学院生らとの記念撮影

大連理工大学 JMBA 経営学研究科１年張彦博さんのスピーチ

歓談の様子

てお話がありました。ひき続いて、城西国際大学の倉林眞砂斗副学長より、日中連携博士課程およびＪＭＢＡプログラムについての概要説明やこれまでの実績等が紹介されました。

その後、大連市政府日本駐在総代表の王新（Wang Xin）氏から祝辞をいただくとともに、本学に産学連携等でご協力いただいている企業等からのご来賓の方々が紹介されました。

歓談を挟んでのスピーチでは、日中連携大学院学生で、この春に初の博士号を取得した大連外国語大学准教授の王梅（Wang Mei）さんや、ＪＭＢＡの学生代表として大連理工大学の張彦博（Zhang Yanbo）さん、城西大連学友会を代表して副会長の李洪迪（Li Hongdi）さんが理事長にお祝いと感謝の言葉を贈りました。

そして、水田理事長は「これまで一生懸命取り組んできた大連理工大学と学校法人城西大学との絆と連携教育の深まりと発展を評価いただいて、栄誉ある名誉教授の称号を先日大連理工大学よりいただきました。そして、本日これほど多くの皆さまに祝っていただき、大変光栄です。今後も両校の発展と日中友好の懸け橋となるグローバル人材の育成に力を尽くしていきます」と挨拶しました。

森本学長より水田理事長に記念品贈呈、両大学や日中連携大学院学生等より花束の贈呈が行われ、柳澤学長の締めの言葉で祝賀会は盛況のうちに終了しました。

その後、今回の授与を記念して「人格形成と多文化共生教育・研究」と題した講演会が開催されました。講演会では、水田理事長が自らの海外留学や教員時代の体験も踏まえた異文化理解の必要性とその難しさ、21世紀型の大学教育における多文化共生教育・研究の重要性や推進する上での課題などについて話され、出席した両学関係者や大学院生ら約１２０人らは皆熱心に講演に聴き入っていました。

なお、今回の授与により、水田理事長がこれまで他学から受けた名誉学術称号は中国の華南師範大学（South China Normal University）名誉教授、韓国の東西大学（Dongseo University）名誉博士、ハンガリー共和国のセント・イシュトバーン大学（Szent István University）名誉博士、中国の東北大学（Northeastern University）名誉教授、ハンガリーのブダペスト商科大学（Budapest Business School）特別栄誉教授、中国の大連理工大学（Dalian University of Technology）名誉教授に次ぐ七つ目となります。

林群学長より名誉教授証書を授与される水田理事長

名誉学位

中国 瀋陽師範大学より名誉教授を授与され、記念講演を実施

日時：２０１３年９月16日
場所：瀋陽師範大学、中華人民共和国

２０１３年９月16日、中国の瀋陽を訪問中の水田宗子理事長は、瀋陽師範大学（Shenyang Normal University）より名誉教授の称号を授与され、記念講演会を行いました。

本学と瀋陽師範大学は２０１１年10月に学術交流を締結し、以降さまざまなかたちで学生や教員の交流を積極的に検討してきました。そして、２０１３年９月の訪問で２＋２の日中教育共同プログラムの協定を締結し、今後の具体的な交流が期待されるところです。

また、本年４月に開設した本学東京紀尾井町キャンパス３号棟の化石ギャラリーに同大学の古生物博物館の協力により制作された全長８メートルの肉食恐竜の全身骨格の学術標本が設置されており、古生物博物館の孫革（Sun Ge）館長は本学水田記念博物館の顧問にも就任されています。

今回の名誉教授授与は、これらの活動を通じた両大学の交流に対する水田理事長の学術貢献・実績が高く評価されたもので、古生物博物館学術講演ホールで行われた授与式では、両大学の関係者が出席する中、瀋陽師範大学の林群（Lin Qun）学長より名誉教授証書およびバッジが贈られました。

授与を受け、水田理事長は「このような栄えある名誉教授の称号を授与いただき、大変光栄です。今後も両大学の発展とグローバル人材の育成に貢献してまいります」と挨拶しました。

国際交流活動

タイ ランシット大学と学術交流協定を締結

日時：２０１３年４月５日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

２０１３年４月５日、学校法人城西大学は、タイのランシット大学（Rangsit University）と学術交流協定を締結しました。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。

当日は、ランシット大学のピヤスダー・マーワイ（Prof. Piyasuda Mawai, PhD）教養学部長らが東京紀尾井町キャンパスに来学され、水田宗子理事長をはじめとする学校法人城西大学の執行部メンバーらと面会し、学術交流協定を締結しました。

ランシット大学は首都バンコクに隣接するパトゥムタニ県に位置するタイの私立大学です。１９８８年にランシット単科大学として創設され、１９９０年に大学になりました。

同大学は、82の学士課程プログラム、31の修士課程プログラム、7の博士課程プログラムを有しており、全学生1万4千人です。主な分野としては健康科学分野、人文社会科学分野、工学技術分野、経済経営分野、美術分野の五つであり、本学とも幅広い分野での交流が可能です。

なお、協定締結後、同大学訪問団は、城西国際大学千葉東金キャンパスを訪問し、キャンパスを見学された後、倉林眞砂斗副学長をはじめ、国際人文学部学部長代行、市山・マリア・しげみ語学教育センター所長らと日本語教育プログラムを中心とした交換留学など、具体的な交流内容について早速打ち合わせを行いました。また、ランシット大学では英語教育プログラムも大変充実しており、これらを含めた今後の積極的な交流活動が大いに期待されます。

協定締結後の記念撮影（前列向かって右がピヤスダー・マーワイ学部長、左が水田宗子理事長）

国際交流活動

泰日工業大学と学術交流協定を締結

日時：2013年5月8日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年5月8日、学校法人城西大学は、タイの泰日工業大学（Thai-Nichi Institute of Technology）と学術交流協定を締結しました。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。タイにおいても、2012年10月に泰日本経済技術振興協会（TPA）のプラユーン会長が来学し、水田宗子理事長と「連携協力に関する合意書」を締結したことが契機となり、2013年1月にはバンコク大学（Bangkok University）、4月にはランシット大学（Rangsit University）と学術交流協定を結びました。また、今回の泰日工業大学来学の前日の7日には、TPAプラユーン会長を講師に迎えて、本学で第2回ASEANフォーラムJOSAIを開催するなど、本学とタイの大学との交流はますます深まり、泰日工業大学との学術交流協定締結に至りました。

当日は、泰日工業大学のクリサダー・ヴィサワティーラノン（Krisada Visavateeranon）学長らが本学東京紀尾井町キャンパスに来学され、3号棟国際会議場にて水田宗子理事長をはじめとする学校法人城西大学の執行部メンバーらと面会し、学術交流協定を締結しました。クリサダー学長は挨拶の中で「われわれは若い大学ですが、年々学生が増え、工学部を中心に教育プログラムも急速に充実してきています。学生は全員日本語を必修で学び、日本語を話せる技術者の育成に注力しています。今回の学校法人城西大学との協定締結を機に、日本の大学との連携・交流をますます強化させていきたい」と流暢な日本語で話されました。協定締結後のミーティングでは、日本語教育プログラムを中心とした交換留学など、今後の具体的な交流内容について話し合いが行われました。

また、本学と海外の姉妹校の女性学長、副学長ら女性リーダーで組織されている研究ネットワーク「L-WIN」(Leaders-Women International Network) に、このたび泰日工業大学の Pornanong Niyomka Horikawa 副学長も加わることになりました。

泰日工業大学は首都バンコクにあるタイの私立大学で「学問を発展させ、産業の振興に寄与し、経済・社会に貢献する」という理念で2007年に創設されました。3学部4研究科を有しており、4200名の学生が学んでいます。大学の母体である泰日本経済技術振興協会（TPA）は、タイ国の人材育成、産業技術情報の普及・促進、日・タイ友好にさまざまな事業を展開しています。

今後の本学と泰日工業大学との積極的な学術交流活動が大いに期待されます。

学術交流協定の調印

国際交流活動

第19回チェコ語弁論大会が本学で開催

日時：2013年5月25日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年5月25日、チェコ共和国大使館の主催による「第19回チェコ語弁論大会」が本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールを会場として開催されました。

本大会は、これまで毎年大使館にて行われていましたが、現在大使館が改修中であることから、中期目標の中でチェコをはじめとする中欧地域の大学との教育交流を積極的に展開し、本年度よりチェコ語の授業もスタートした本学が会場を提供して行われたものです。

大会の開催にあたり、カテリーナ・フィアルコヴァー（Kateřina Fialková）大使は、「この弁論大会も回を重ねるほどに良い評判を確立するようになってきました。チェコ語を話す日本の方が、ますます多くなってきているのはこの大会のおかげでもあり、これらの方々は、日本とチェコの友好関係の『懸け橋』です。今年は大会が初めてチェコ大使館を出て、城西大学で行われます。開催に際して心のこもったお世話をいただいている水田理事長をはじめ関係者の皆さま方に、心より御礼申し上げます」と挨拶しました。ひき続いて水田宗子理事長が「チェコ語の弁論大会が本学で開催されるのはまことに光栄です。本学でチェコ語を学び始めた学生たちが、来年のこの大会に出場することを大いに期待しています」と挨拶しました。

表彰式で、１位の賞状を手に大使と握手する槍田さん

大会にはチェコ語を学ぶ男女10名が出場しました。出場者はそれぞれチェコ語による自己紹介に続き、二つのテーマ「食事と家の習慣」「自分の将来の計画」のうちのいずれかを選び、持ち時間5分でチェコ語のスピーチをしました。出場者の年齢やチェコ語の学習期間、学ぶきっかけや環境などはそれぞれ異なりますが、出場者は多くの聴衆を前に、皆一生懸命に日ごろの学習の成果を披露していました。

理事長賞に選ばれた大江さん（中）

大使や立教大学の阿部賢一准教授、東京外国語大学のゲブハルトヴァー（Markéta Gebhartová）先生、外務省中・東欧課の塚本公平氏、チェコセンターの山本涼子氏からなる5名の審査員による厳正な審査を経て、見事1位には槍田ひかりさん（大学生）が選ばれ、授賞式ではフィアルコヴァー大使から賞状および副賞としてチェコの大学での1か月間の留学の権利が、プラハとほかのヨーロッパ都市間の飛行機のチケットとともにプレゼントされました。

出場者や審査員らによる記念撮影

また、今回特別に本学から「水田宗子理事長賞」が設けられ、大江智子さん（大学生）が見事受賞、水田理事長より賞状と記念品が贈られました。

なお、大会の最後には、この4月からチェコ語を学び始めた本学学生の代表3名が、ステージ上でチェコ語による挨拶と今後の抱負を披露しました。今後のチェコ語の上達とグローバルなコミュニケーション力を身に付けることが大いに期待されます。

また、今回の弁論大会実施にあわせ、本学3号棟水田アートギャラリーにおいて「本学とチェコの交流」と題した写真展が開催されました。本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に中欧地域との教育交流を強化しています。チェコに関しても、水田理事長のチェコ共和国大使館訪問を契機に、フィアルコヴァー大使のご紹介により本年3月にプラハ経済大学（University of Economics, Prague）と学術交流協定を締結しました。その後6月には本学訪問団がカレル大学（Charles University in Prague）、プラハ経済大学、マサリク大学（Masaryk University）を訪問しています。

ギャラリーでは、チェコの美しい風景の紹介とともに、昨年6月の大学訪問の様子や、これまで本学で行われたチェコ関連のシンポジウム・イベント等を紹介しつつ、チェコの音楽、文学、アニメーション、人形劇などの独特の文化もあわせて紹介しました。

３号棟アートギャラリーで写真展を見学される大使たち

国際交流活動

第3回城西大連・東北学友会懇親会を開催

日時：2013年5月26日
場所：大連市内、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学大連訪問団一行は、2013年5月26日、大連市内のホテルで第3回城西大連・東北学友会懇親会を開催しました。

学友会からの寄付金を手に、学友会メンバーらとの記念撮影

今年の懇親会には、城西大学・城西国際大学で学んだ日中連携大学院の卒業生、在学生をはじめ、JMBAスカラシップや共同教育プログラムの卒業生、〝向坊隆記念〟村井隆奨学金、〝水田三喜男記念〟水田宗子奨学金の受賞生、私費留学の卒業生等などに加え、大連外国語大学（Dalian University of Foreign Languages）、大連理工大学（Dalian University of Technology）、大連海事大学（Dalian Maritime University）、中国東北大学（Northeastern University）からの来賓の先生方など、総勢120名近くの方々が集まりました。本会は、回を追うごとに参加者も増えて内容も充実度を増してきています。

出席者たちによる記念撮影

会の冒頭の挨拶で水田宗子理事長は、卒業生との再会を喜ぶとともに「この会も3回目となり、今日は、上海や瀋陽、天津と遠くからも卒業生が駆けつけてくれています。起業をされたり、マスコミに勤められたりする方なども含めて、大企業の幹部としてご活躍している皆さまの頼もしい姿を見ることができて、大変嬉しく思います。また、日中連携大学院もますます充実しており、この春には日中連携大学院の第1期生2人が、城西国際大学の博士号を取得しました」と挨拶した後「皆さまの母校、城西大学もまもなく創立50周年を迎えますので、ぜひ後輩たちへのサポートをよろしくお願いします」と述べました。その後、大連学友会より水田理事長に創立50周年に向けた寄付金が贈呈されました。また、大連市中日友好学友会会長も務める大連理工大学の杜鳳剛（Du Fenggang）先生や、大連外国語大学の陳岩（Chen Yan）先生などからご挨拶をいただきました。

なお、大連理工大学の張偉（Zhang Wei）先生に、城西国際大学の国際グリーンマテリアル研究所の客員教授の辞令交付式もあわせて行われました。

今回集まった卒業生たちは、現在欧米や中国の大学教員として、また中国のグローバル企業の幹部等としてそれぞれ大いに活躍しています。学校法人城西大学の人材育成の精神は後輩たちに引き継がれ、現在も多くの優秀な学生たちが育ってきました。今後も学友会の皆さんの力を集結し、学友のつながりを広げ、親睦を深めるとともに、日中両国の国際交流の促進や経済・文化の発展に一層寄与していくことが期待されます。

国際交流活動

中国大連高級経理学院を訪問

日時：2013年5月27日
場所：中国大連高級経理学院、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学大連訪問団一行は、2013年5月27日に中国大連高級経理学院（China Business Executives Academy, Dalian）を訪問し、顧問の林安西（Lin Anxi）先生らと会見しました。

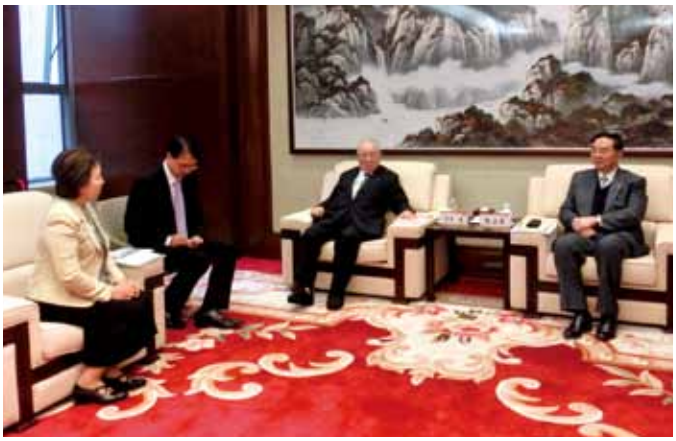
中国大連高級経理学院は、中国全土の国営企業の社長たちを対象に教育・研修する機関として昨年9月に開学されたもので、世界各国のビジネススクールと連携をしています。また、中国各地からの受講者による宿泊型研修がほとんどのため、敷地内に

ホテルやレストランなどの施設も完備されています。

林先生は大連理工大学党委書記を長く務められた後、大連高級経理学院の院長に就任され、学校法人城西大学の大連事務所開設ならびに日中連携大学院開設にあたっても大変尽力くださった方です。

会見では、林先生から開学に至るまでのさまざまな苦労話や、経営や運営に関する有意義なお話があり、本学からも大連理工大学との学術交流の進展の様子や、日中連携大学院博士号取得の成果などが報告されました。

また、林先生自ら、真新しく豪華なキャンパスやさまざまな関連施設等をご案内いただくとともに、昨年5月に訪問した際に本学が記念植樹した水田桜もすくすくと育っている姿を見ることができました。



林先生（右）と会見する水田理事長（左）、村井隆顧問（中）

国際交流活動

中国 大連理工大学にて〝向坊隆記念〟村井隆奨学金、〝水田三喜男記念〟水田宗子奨学金授与式および水田三喜男記念文庫第9次贈呈式を挙行

日時：2013年5月27日

場所：大連理工大学、中華人民共和国

2013年5月27日、水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学大連訪問団一行は、大連理工大学（Dalian University of Technology）を訪問しました。

到着後、水田理事長と張德祥（Zhang Dexiang）党委書記の会見が行われた後、張德祥党委書記、寧桂玲（Ning Guiling）副学長をはじめ同大学の先生方のご出席のもと〝向坊隆記念〟村井隆奨学金、〝水田三喜男記念〟水田宗子奨学金授与式が行われ、大連理工大学大学院の両奨学生計39名に水田理事長および村井隆顧問から奨学金が贈呈されました。授与された院生は、いずれも大連理工大学の各専門分野の博士課程と修士課程から特に選ばれた皆さんであり、今後の研究活動、そして社会での活躍を大いに期待したいと思います。

その後引き続き、水田三喜男記念文庫の贈呈式が行われ、城西大学福島和伸先生から大連理工大学経済学部長の蘇敬勤（Su Jingqin）先生に今回寄贈する文庫の目録が贈られました。この記念文庫は、戦後の日本経済復興から高度成長の時代において、水田三喜男先生が日本経済発展に大きく貢献された軌跡を辿ることができる図書から選書を始めて、今回までで累計763冊を寄贈しました。第9回となる今回は、政府系刊行物・白書類や城西大学・城西国際大学の紀要に加え、応用数学、女性学や福祉関連の図書も含め、計117冊を寄贈しました。

水田理事長と張德祥党委書記の会見の模様

蘇敬勤先生（左）への記念文庫の目録授与

奨学金の授与

国際交流活動

中国 大連外国語大学を訪問、大学改名式をお祝い

日時：2013年5月28日
場所：大連外国語大学、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学大連訪問団一行は、2013年5月28日、大連外国語大学（Dalian University of Foreign Languages）を訪問し、柳振万（Liu Zhenwan）党委書記や孫玉華（Sun Yuhua）学長らと会見しました。

大連外国語大学は、中国東北地方では唯一の外国大学（国立）として知られており、約1万3千名の学生が学んでいます。

同大は今年、これまでの「大連外国語学院」から「大連外国語大学」に昇格・改名し、今回の訪問は、おりしも大学改名式の前日となりました。会見では、これまでの両大学の交流を振り返るとともに、今後の日中観光人材育成について議論され、そのための奨学生制度や本学観光学部への大連外国語大学学生のオール・イングリッシュコースでの受け入れ等について検討を進めていくことになりました。

また、改名した大連外国語大学の船出を祝って本学から帆船「日本丸」の模型を贈呈し、それに応えて柳書記が訪問団一行それぞれにその場で自筆の書をお書きくださり、一人ひとりに贈られました。

柳先生は長い間観光分野の第一線でご活躍をされ、大連を「浪漫之都（Romantic City）」という観光ブランドとして登録し、世界都市観光の最先端に立ってブランド化を推進されました。柳先生自らキャンパス内をご案内くださった後、先生ご自身が手がけられた市内の赤アカシア並木も紹介いただきました。

孫学長（右）と会見する水田理事長

日本丸の模型を手にする柳先生（左）と水田理事長

国際交流活動

ポーランド ワルシャワ大学と学術交流協定を締結

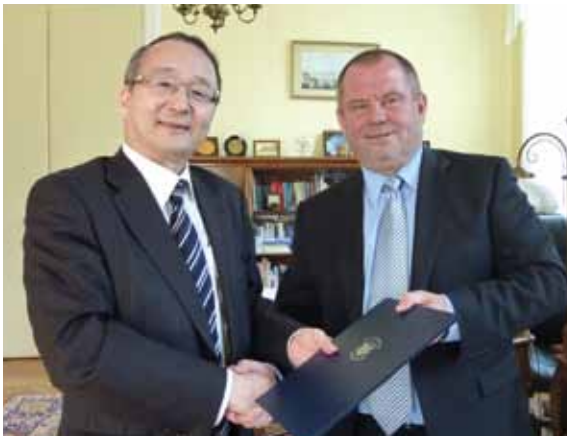
日時：2013年6月3日
場所：ワルシャワ大学、ポーランド共和国

学校法人城西大学は、2013年6月3日、ポーランドのワルシャワ大学（University of Warsaw）と学術交流協定を締結しました。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて、世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。ポーランドにおいても、すでにポーランド日本情報工科大学（Polish-Japanese Institute of Information Technology）、ウッチ大学（University of Lodz）と学術交流協定を結び交流を開始しています。今回は、水田宗子理事長の代理として並河克彦経営企画室長、市山・マリア・しげみ城西国際大学語学教育センター所長が同大学を往訪し、学術交流協定を締結することになったものです。今回の訪問では、研究・交流担当のアロイジィ・ノヴァック（Alojzy Z. Nowak）副学長との会談が実現し、協定書を取り交わすとともに、両大学共に力を入れている国際交流に関する話し合いが行われました。

ワルシャワ大学は、1816年設立の総合大学で、フレデリック・ショパン（Frédéric François Chopin）も卒業生の一人です。現在では、人文科学から自然科学まで100以上のコースがあり、6万1300名の学生を有しています。ポーランドは欧州でも最も古くから日本語・日本文化の研究が行われてきましたが、ワルシャワ大学は常にその中心的研究機関であり、1919年にはポーランドで初めて日本語講座が開かれました。現在は、東洋研究所日本韓国学科が欧州の日本研究の中心となっています。

今回の協定締結を受け、ワルシャワ大学からの留学生を受け入れる予定ですが、さらに今後、両学の間で教育や研究の共同プログラムの構築、教員・学生の交流等、さまざまな分野で協力を進めていく予定です。


アロイジィ・ノヴァック副学長（右）と協定書を取り交わす並河室長（左）

国際交流活動

カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学を訪問、高円宮妃殿下ご講演

日時：2013年6月17日～18日
場所：ブリティッシュ・コロンビア大学、カナダ

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学訪問団一行は、2013年6月17日から18日にカナダのブリティッシュ・コロンビア大学（The University of British Columbia）を訪問しました。

今回の往訪では、今後の交流の拡大を見据えてステファン・トゥープ（Stephen J. Toope）学長、デビッド・ファーラー（David Farrar）副学長らと会見するとともに、同学の社会福祉学部を視察し、ティモシー・ステイントン（Timothy Stainton）学部長とも会談を行いました。

また滞在中の18日には、本学よりご紹介申し上げて同大学主催により、高円宮妃殿下の根付に関するご講演も行われました。ご講演はアジア学科に隣接するリュウ・インスティテュートで開催され、同大学関係者、日本文化研究者、地元日系コミュニティの方々など、会場一杯の参加者を得て、質疑も予定時間を超える、活気ある講演会となりました。妃殿下は、根付のコレクター・研究者としても功績を挙げられており、本学でも2012年9月に城西大学水田美術館で「高円宮妃久子殿下特別展 空翔ける鳥、旅する根付」と題した根付の写真展および妃殿下の根付コレクションの展示会を行いました。

ブリティッシュ・コロンビア大学は1908年に設立され、学部生4万人、大学院生1万人のカナダ西部最大の総合大学です。

本学との関係は1991年水田宗子理事長が特別招聘教授として講義をされたことにさかのぼり、先方から定期的に客員教授を受け入れる深い関係を保ってきました。中でも、アジア学科は城西国際大学国際人文学部と学術交流協定を締結しており、本学からも日本語講師の派遣、JIU福祉総合学部・国際人文学部の夏期研修派遣などの交流を積極的に行っています。

キャンパス内にある人類学博物館にて、トゥープ学長（中）と

妃殿下のご講演の様子

国際交流活動

インドネシア ペトラ・クリスチャン大学学長が来学、学術交流協定を締結

日時：2013年7月5日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年7月5日、インドネシアのペトラ・クリスチャン大学（Petra Christian University）のローリー・インタン学長（Prof. Dr. Rolly Intan）が東京紀尾井町キャンパスに来学され、本学と学術交流協定を締結しました。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。

ペトラ・クリスチャン大学とは、昨年7月に同大で行われた「アジア・サマー・プログラム（Asia Summer Program）」に本学が参加した際にプログラム交流がスタートしていましたが、今回の学長来学により学術交流を締結することになったものです。

ペトラ・クリスチャン大学は、インドネシア第2の都市スラバヤに位置する私立大学で、思いやりとキリスト教の価値観を担う国際大学になるという展望のもと1961年に創立されました。6学部21学科、大学院2研究科で構成され、学術的なプログラムだけではなく、専門知識や実践的なスキルが習得できるプログラムを積極的に推進しており、学生数は約8千人です。

今回来学されたローリー学長とメイリンダ国際交流部長（Melinda Ma）はキャンパスにご到着後3号棟の主要施設を見学した後、水田宗子理事長をはじめとする学校法人城西大学の執行部メンバーらと国際会議室にて面会しました。

締結に先立ち、水田理事長は「本学とペトラ・クリスチャン大学は学部の共通分野も多く、今回の締結を機にさまざまな分野での交流を具体的に推進していきたい」と挨拶しました。続いてローリー学長も「今後の両学の交流促進により、日本・インドネシアのみならずグローバルに貢献できる人材育成にいっそう力を入れてゆく」と話され、その後協定書の締結が行われました。

なお、学長らは東京紀尾井町キャンパスを離学後、観光学部のある本学の安房キャンパスを訪問し、主要施設を見学するとともに、観光学部をはじめとする今後の両大学での具体的な交流についての話し合いの場を持ちました。また、翌日は千葉東金キャンパスを訪問し、施設見学に加えて、学生による学長への英語インタビューも行われました。

学術交流協定を締結

国際交流活動

中国 東北師範大学人文学院と学術交流協定を締結

日時：２０１３年９月９日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

２０１３年９月９日、中国吉林省長春にある東北師範大学人文学院（College of Humanities & Sciences of Northeast Normal University）から、穆樹源（Mu Shuyuan）理事長と洪栖川（Hong Xichuan）日本語言文化学院名誉院長が本学の東京紀尾井町キャンパスを訪れ、両大学間の学術交流協定の調印式を行いました。今回は、包括協定に加え日中共同教育プログラム協定も締結しました。

調印書へのサイン

東北師範大学人文学院は１９８８年に創立され、２００４年に中国教育部に認可された中国の私立大学です。吉林省の省都の長春にある長春ハイテク産業開発区に位置し、国際商務学部、文学部、福祉学部や芸術学部、デザイン学部など13学部42専攻を有し、およそ１万人の学生が学んでいます。

調印式に際し、学校法人城西大学水田宗子理事長は「本学と東北師範大学とはメディア・福祉・ビジネス分野など、共通の学部も多い。両学で力を合わせ、21世紀に必要とされる国際人材を育成していきたい」と挨拶しました。続いて、穆樹源理事長も「学校法人城西大学は経験が豊富で、本学が学ぶものは多い。今後は共通する学部をベースに、両学の交流を深めていきたい」と挨拶し、その後協定の締結が行われました。

今回の共同教育プログラムに基づき、両学では今後、日本語・中国語・英語の優れた語学力を備え、日中両国の文化と社会に関する深い知識を持ち、国際化社会において経営・金融・観光・メディア・ＩＴ・福祉などの専門分野で活躍できる人材の育成に取り組んでいきます。

国際交流活動

中国医科大学を訪問、看護学部研修受け入れで合意

日時：２０１３年９月13日
場所：中国医科大学、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、２０１３年９月13日に中国医科大学（China Medical University）を訪問し、趙群（Zhao Qun）学長らと会見しました。

中国医科大学とは、２０１１年10月訪問時に党委書記の戴万津（Dai Wanjin）先生と会見した後、同年12月に学術交流協定を締結し、その後両学で医療福祉分野をはじめ、環境・介護・薬剤・語学分野でのハイレベル人材の養成・共同教育や、城西国際大学の看護学部の学生海外研修への受け入れ教育について協議を続けてきました。

今回の会見には、趙学長をはじめ、潘伯臣（Pan Bochen）国際交流処長、王禾（Wang He）日本語研究室副主任らが出席されました。

会見では、水田理事長が「日本、中国とも今後より一層の少子高齢化が進んでいく中、両学で日中間の高齢者向けの医療・看護・福祉について連携をより深めていきたい」と話しました。これを受け、趙学長も「両学の交流プログラムを強化して両国、両地域に根付いた医療人材を育てていきたい」と応えました。

現在、城西国際大学看護学部では、全員が１年生時に米国での研修を行っていますが、今回の会見で、同学部の中国医科大学での研修受け入れについて実務的な話し合いがもたれました。また、日本語教育・日本文学に関しても話し合いが進み、相互の教員派遣や共同研究を今後具体的に進めていくことで合意しました。

会見後は、キャンパス内の歴史にまつわる資料・写真等が多数飾られている歴史展示室や、中国医科大学の前身である南満医学堂（後の満州医科大学）旧校舎なども見学しました。また、今回訪問団の一員として参加した城西国際大学の飯田加奈恵（Kanae Iida）看護学部長が、中国医科大学の看護学部長と研修受け入れ等に関するミーティングを持ち、中国東北地域における最大の総合病院である同大学付属病院の主要施設を視察しました。

今回の訪問および各種合意を受け、日中両国の医療・看護・福祉および日本語教育に関する人事育成のための具体的な交流の進展が大いに期待されるところです。

中国医科大学キャンパス

水田理事長と趙学長の会見

国際交流活動

中国 東北大学と共同学部設立で合意

日時：２０１３年９月14日
場所：東北大学、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、２０１３年９月14日に中国の東北大学（Northeastern University）にて丁烈雲（Ding Lieyun）学長らと会見し、両学による共同学部の設立に関する覚書に調印しました。

日本の大学と海外の大学による共同学部設立は過去にもほとんど例のない画期的なことであり、国際学術交流の新たな展開として今後の展開が大いに期待されます。

今回の覚書は、東北大学キャンパスに両学による共同学部（共同教育機構）「東北大学国際文化創造学部（仮称）」を設置して、両学で工学、人文学、メディア学を核とする教育研究を推進することにより、グローバル社会で活躍できる人材を共同で育成することに合意したものです。

調印式を終えて

会見では、丁学長をはじめ、姜茂発（Jiang Maofa）副学長、呉勁松（Wu Jinsong）学長補佐、于福暁（Yu Fuxiao）国際合作および交流処長、王秋菊（Wang Qiuju）外国語学院副院長らの出席のもと、本学訪問団と共同学部の設立等に関して議論しました。

会見で水田理事長は「今年で90周年を迎える、伝統ある東北大学と共同学部の設立に合意でき、大変光栄です。共同学部では、両大学で力を合わせて言語・文化・メディアをコアに、クリエイティブなグローバル人材育成に取り組んでいきたい」と挨拶しました。丁学長も「自然・理工分野に強い東北大学と、人文分野に強い城西大学の互いの長所を生かした共同学部を設置することにより、クリエイティブ産業において先端的なテクノロジーを活用することのできる人材を育成したい」と述べました。

今回の合意に基づき、今後両学による設置準備委員会を設置して共同学部設置に向けて諸準備を開始し、中国政府教育部の許認可申請を行い、早期の学部開設を目指します。

本学と東北大学は２０１０年８月に学術交流を締結し、以降さまざまなかたちで学生や教員の交流を積極的に行ってきました。そして、２０１０年には両大学と大連理工大学（Dalian University of Technology）、大連外国語大学（Dalian University of Foreign Languages）の連携による日中連携大学院博士課程を開設、集中講義を含めてこれまでに多くの留学生が本学で学んできました。また、これらの活動を通じた両校の交流に対する水田理事長の貢献・実績が高く評価され、水田理事長が２０１２年９月に東北大学より名誉教授証書を贈られました。

国際交流活動

中国 吉林工程技術師範学院と学術交流協定を締結

日時：２０１３年９月14日
場所：吉林工程技術師範学院、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、２０１３年９月14日に瀋陽市内にて中国の吉林工程技術師範学院（Jilin Teachers' Institute of Engineering & Technology）の劉琦（Liu Qi）副学長らと会見し、学術交流協定を締結しました。

吉林工程技術師範学院には、デザイン、アニメ、ファッション、工芸教育など多くの専攻を持つ芸術学部があり、本学のメディア学部との共通分野も多いため、今回の締結により、メディアを中心とする両大学間の教育および研究の諸分野の学術交流や、教員、研究者および学生の交流が行われることが期待されます。

また、会見では中国でも高まる観光人材や高度の専門的職業人育成のニーズに対応すべく、水田理事長より城西国際大学観光学部や大学院国際アドミニストレーション専攻への留学への提案等もあり、劉副学長も「ぜひ早期に学術交流をスタートし、それらを実現したい」と応えました。

吉林省長春市にある吉林工程技術師範学院は、国務院許可のもとに１９７９年に創立された公立大学で、現在、遼寧省・吉林省・黒竜江省の東北三省と内モンゴル地区において唯一の全日制本科職業師範大学として広く知られています。工学、理学、人文学、マネジメント、経済、教育、芸術の七つの学部があり、学生数は約１万１千名です。

両学関係者による記念撮影

国際交流活動

中国 東北大学創立90周年記念式典に出席、水田理事長の特別講演会を開催

日時：2013年9月15日
場所：東北大学、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2013年9月15日に中国の東北大学の創立90周年記念式典に出席しました。今回は、姉妹校としてのこれまでの両学の学術交流・人材育成の成果を受け、東北大学より招待されて出席したもので、中国内外の各分野の招待客のうち、海外の大学で招待を受けたのは本学含めて2校のみでした。

東北大学は、1923年の創立以来、「自立奮闘、強い意志を持つ、知識と行動が一致する」建学精神のもと発展を続けてきました。すでに社会に25万人以上の卒業生を送り込み、中国内のみならずグローバルな人材育成や、多方面で大きな研究成果を上げてきました。現在、東北大学は「進展する中国内で国内一流、世界で有名な大学の高い水準の研究型大学」を目標にさらなる歩みを続けています。

当日は雲一つない青空のもと、創立90周年を記念してさまざまな催しが行われましたが、午前中に本館前で行われた記念祝賀会では、水田理事長が各界の招待客らとともにステージ上の特別席にて出席しました。

午後は各学院にて学術フォーラムが実施されましたが、東北大学の特別招聘教授である水田理事長は、外国語学院内の教室にて「文学批評とは何か」というテーマで特別講演を行いました。

全15回の実施が予定されている講演の第1回にあたる今回は、文学と文学批評の成立過程や文学批評の歴史、さまざまな文学批評理論等についての話があり、出席した約70名の日本語学部の教員や院生らは皆熱心に耳を傾けていました。

また、講演会終了後には、日本語学部で日本語を教えている城西国際大学の卒業生らと久々に再会し、授業や学生たちとの接し方などについてアドバイスをするとともに、中国での生活等に関して歓談しました。

なお、訪問団は当日の夜に体育館で行われた創立記念「演芸の夕べ」にも出席し、詰めかけた学生やOB、地元関係者ら多くの出席者たちと共に創立90周年を祝福しました。

式典会場の様子

特別講演の様子

「演芸の夕べ」

国際交流活動

中国 遼寧大学を訪問

日時：2013年9月16日
場所：遼寧大学、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2013年9月16日に遼寧大学（Liaoning University）を訪問して黄泰岩（Huang Taiyan）学長らと会見しました。

遼寧大学は1948年に創立された学生数2万7千名の国立大学で、中国の国家重点大学の一つであり、遼寧省でも最高クラスの大学として知られています。国際経済学院、経済管理学院、工商管理学院など25の学部で構成された総合大学で、日本語科も設置されており、日本からも多くの学生が留学しています。本学は2011年10月の水田理事長の訪問の際に学術交流協定を締結し、以降両学で

国際交流活動

中国 瀋陽師範大学を訪問、2＋2の共同教育プログラム協定を締結

日時：2013年9月16日
場所：瀋陽師範大学、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2013年9月16日に瀋陽師範大学（Shenyang Normal University）を訪問して林群（Lin Qun）学長らと会見しました。

キャンパス内の古生物博物館にて行われた会見には、林学長の他に張輝（Zhang Hui）副学長、孫革（Sun Ge）古生物博物館長、張偉（Zhang Wei）国際交流合作処長らが出席されました。

会見では、本年4月に開設した本学東京紀尾井町キャンパス3号棟の化石ギャラリーで、同大学の古生物博物館の協力により制作された全長8メートルの肉食恐竜の全身骨格の学術標本を設置した件に関して水田理事長が御礼を申し上げ、ギャラリーが多くの来場者でにぎわった様子や、その後の活動内容等についても報告を行いました。また、本学メディア学部、観光学部の活動・研究内容の紹介や、日中ともに少子高齢化社会が進んでいく中での福祉、看護等を含めたグローバル人材育成の重要性について話しました。

林学長も「お互いの国の文化や語学を学んで、日中両国の発展に貢献できる優れた人材を両学で育成したい」と応えました。

本学と瀋陽師範大学は、2011年10月に学術交流を締結し、以降さまざまなかたちで学生や教員の交流を積極的に検討してきました。

そして、今回の訪問を経て、両学の間で日中教育共同プログラムの協定を締結しました。今後、本協定に基づき、両学で協議をしながら日中間の共同研究を進めると同時に、経営・IT・メディア・観光・福祉・人文・環境の領域における2＋2などの具体的な共同プログラムの推進が大いに期待されます。

会見後、訪問団はキャンパス内を見学し、芸術学部の教員らのさまざまなジャンルの作品展、図書館の数々の貴重な書物の紹介、観光学部にて学生による心のこもったお茶のおもてなし等を受けました。

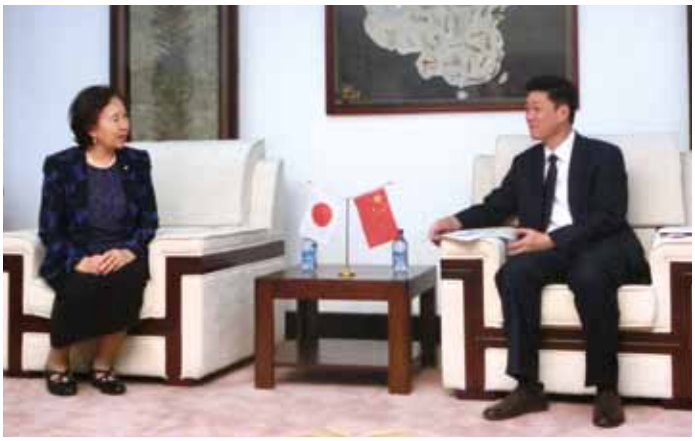
また、瀋陽師範大学は中国で絶滅の危機にある満州語や満族の歴史・文化を研究する中国内の唯一の大学として指定されており、近く満学研究院を設立する予定ですが、本学がその研究院の日本側の窓口となって連携して研究に取り組むことについても、このたび両学で合意しました。

の交流について積極的に議論をしてきました。

会見には、本学から水田理事長をはじめ村井隆顧問らが出席し、遼寧大学からは黄泰岩学長、徐平（Xu Ping）副学長らが出席しました。会見では両学の最近の活動・研究状況の報告をするとともに、日本文化・日本語教育に加え、今後の日中両国にとって大きな課題となる環境、経営、福祉などの分野に関しての交流促進の話し合いが行われました。会見で、水田理事長は「今後は2＋2をはじめ、具体的な交流をぜひ進めたい。また、本学もスポーツに力を入れており、スポーツでの交流も行いたい」との提案がありました。黄学長も「貴学とは共通の学部・分野も多く、強みも似ている。本学は日本語教育センターもあるので、学生だけでなく教員レベルの交流もぜひ深めていきたい」と応じました。

その後、訪問団は国際交流処の張海波（Zhang Haibo）副処長の案内により、同大学の法学部の主要教室や体育館、図書館など、前回の訪問時に比べてさらに美しくなったキャンパスの見学を行いました。

会見する水田理事長と黄学長


会見する水田理事長と林学長

観光学部にてお茶のおもてなし

国際交流活動

中国 渤海大学を訪問、学術交流協定を締結

日時：2013年9月17日
場所：渤海大学、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2013年9月17日に渤海大学（Bohai University）を訪問して、楊延東（Yang Yandong）学長らと会見し、学術交流協定を締結しました。

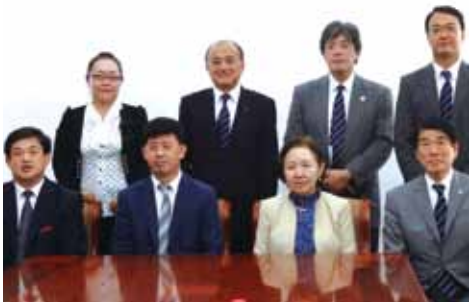
渤海大学は遼寧省西部の錦州市にある遼寧省直轄の総合大学で、1950年創設の錦州師範学院と1951年創設の遼寧商業高等専科学校が統合した後、2003年に「渤海大学」に改称されました。

130万平方メートルの広大なキャンパス内に、管理学院、教育学院、歴史系、旅游学院、商学院、生物学院、数学系、外国語学院、物理系、新聞与伝播学院、芸術学院など22学部56学科があり、2万3千名の学生が学んでいます。

会見は、本学からは水田理事長、倉林眞砂斗副学長らが出席し、渤海大学からは楊延東学長、趙暉（Zhao Hui）党委副書記が出席して行われました。

会見では、水田理事長から「貴学は、中国で最も美しいキャンパスだと伺っていましたが、拝見して本当に感激しました。ぜひ本学の学生にもこの美しいキャンパスで学ばせていただきたい」と挨拶しました。楊学長も「本学は、まだ日本の大学との交流をあまり持っていないので、ぜひ貴学との具体的な交流をスタートさせたい」と応え、その後、学術交流協定の調印が行われました。

本学と渤海大学は、観光、メディア、芸術などの共通学部・分野も多いため、今回の学術交流協定締結により、今後両学間でさまざまな交流がスタートすることが大いに期待されます。


両学関係者による記念撮影

植物園を利用して作られた広大なキャンパス

学術交流協定

サンミュージックと次世代のエンタテインメント人材育成で包括協定を締結、城西国際大学メディア学部で「現代演芸講座」をスタート

日時：2013年7月19日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学と株式会社サンミュージックプロダクションは、2013年7月19日、次世代の映像・メディア・エンタテインメント人材育成に向けた「連携協力に関する包括協定」を締結し、本学の東京紀尾井町キャンパスにて調印式・記者会見を行いました。

今回の締結に基づいて、8月26日より城西国際大学東京紀尾井町キャンパスにて、メディア学部映像芸術コースの中で次世代エンタテインメント人材育成のための「現代演芸講座」がスタートする予定です。

会見には、水田宗子理事長、城西国際大学メディア学部の袁福之学部長らと、サンミュージックプロダクションの相澤正久社長、岡博之取締役らが出席して行われ、一般紙や教育媒体関連のマスコミが多数来場しました。

調印に先立ち、水田理事長は「メディア学部では、社会に役立つグローバル人材の育成に力を入れてきました。今後、さらに重要性が増すエンタテインメント領域において、世界で活躍できる人材をつくるという大きな夢に向け、新しい一歩を進めることができると胸を躍らせています」と挨拶しました。また、相澤社長も「城西国際大学の持つ体系的な人材育成システムと、われわれのもつ最前線のノウハウをうまく合体させて、デジタル・グローバル時代に常に新しい文化コンテンツを創造できる人材の育成に貢献したい」と今回の提携への抱負を述べました。

その後、調印式が行われ、水田理事長と相澤社長が協定書にサインしました。

引き続いて、メディア学部の袁福之学部長が、学校法人城西大学の概要説明と城西国際大学メディア学部の人材育成の取り組み、今回の協定締結の目的について説明しました。

最後に、8月からの「現代演芸講座」の講師を務める岡取締役が、プログラムの狙いとカリキュラムの概要をプレゼンテーションして、発表会は終了しました。

なお、今回の包括協定の一環として、会見終了後に3階の教室で行われたメディア学部の授業「メディア概論」にて相澤社長と岡取締役がゲスト講演を行い、「芸能プロダクションの役割と機能」について話されました。受講した約200名の学生は、皆熱心に聴いていました。

城西国際大学メディア学部映像芸術コースでは、都心の東京紀尾井町キャンパスにおいて、産学連携のもと制作・演出、映像技術、映像美術、アニメーション・CG、芸能、ステージ、サウンド・音楽、コンテンツビジネスの8専攻を設け、次世代の映像・メディア・エンタテインメントの各分野で活躍する人材を育成しています。

株式会社サンミュージックプロダクションおよびグループ会社は、40年以上にわたりエンタテインメント人材を育成し、業界に多くの著名人を輩出しています。また、タレント養成のサンミュージックアカデミーも経営し

ています。

今回、城西国際大学が構築しているメディア関連の体系的な教育システムと、サンミュージックグループのもつ優れたエンタテインメント人材育成ノウハウを合わせて、映像、メディア、ダンス、アクティングなどのわが国の文化コンテンツ産業を担う人材、デジタル時代とグローバル時代における新しい文化コンテンツを創造し広く社会経済に貢献できる人材を育成していくことになったものです。

昨今の放送メディアでは、報道やドラマと共に娯楽番組に対するニーズは大変高く、役者やコメンテーターなどもこなせるエンタテインメント人材の活躍の場はますます広がっています。また、これからの時代において、商品やサービスの体験・経験を通じて得られた「心地よさ・もてなし・満足・感動」がブランドを形成する上で重要になっています。

調印後挨拶する水田理事長と相澤社長

そのような背景のもと、城西国際大学メディア学部は、エンタテインメント教育を通じて、これからの「経験経済」の時代に活躍できる人材を育成していきます。

「現代演芸講座」では、現代演芸に関する概論（基礎知識・表現理論）、実技（身体表現基礎実習）および演習（制作実習）などの授業を通じて自らのセンスを磨き、自分自身を表現・プロデュースできる力を養います。そして、タレントや放送・構成作家、プロモーター、プロデューサー、ディレクターなどのエンタテインメント人材をはじめ、芸能プロダクションやコンテンツ制作会社、イベント会社などの広報・宣伝、販売促進、企画、マーケティングなど、幅広い世界での人材育成を目指します。今回のように、エンタテインメント業界と大学が人材育成において提携を行うのは、大変珍しい試みです。

相澤社長と岡取締役の講義の様子

学術交流協定

城西大学グループがマレーシアで夏季英語セミナーを開催、マレーシア政府観光局を訪問

日時：2013年8月26日～9月10日、9月5日～9月20日
場所：マラ工科大学、トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学、マレーシア

2013年8月26日から9月10日ならびに9月5日から9月20日にわたって夏季英語セミナーがマレーシアの2大学でそれぞれ開催されました。城西大学、城西国際大学、城西短期大学からなる城西大学グループの約120名の学生がマラ工科大学（Universiti Teknologi MARA：略称UiTM）の国際教育センター（略称INTEC）とトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学（Universiti Tunku Abdul Rahman：略称UTAR）を舞台に英語漬けの生活を2週間送りました。

このセミナーは2012年から始まり、今年度で2回目を数えます。このセミナーではイギリス連邦に加盟するマレーシアで集中的に英語を学び、スキル・アップを図ること、また、多民族国家であり、アジアを代表する観光立国の一つとなったマレーシアで国際的な視野を身に付けることを主な目的としています。

今回は、城西国際大学名誉博士ダト・スリ・ドクター・ン・イェン・イェン（Dato' Sri Dr. Ng Yen Yen）元マレーシア観光大臣（現マレーシア政府観光局チェアパーソン）からのご招待を受け、9月6日に上記セミナー参加者に加え、同じマレーシアのマネジメント&サイエンス大学（Management and Science University：略称MSU）でインターンシップ研修や留学をしている城西大学薬学部・薬学研究科の学部生・大学院生13名も合流し、マレーシア政府観光局を訪問しました。そこでは、ン・イェン・イェン元マレーシア観光大臣自らによるマレーシアの観光についての講演や質疑応答が行われたほか昼食も振る舞われ、観光立国マレーシアのおもてなしをじかに体験する絶好の機会となりました。

セミナー参加者全員での記念写真

ン・イェン・イェン元マレーシア観光大臣を囲んで

講演会・シンポジウム

講演会
シンポジウム

日本／アジア映像研究センター、城西国際大学メディア学部共催によるシンポジウム「Supernatural Asia」を開催

日時：2013年4月27日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年4月27日、学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス3号棟竣工記念として、日本／アジア映像研究センターならびに城西国際大学メディア学部主催、日活株式会社の協力によるシンポジウム「Supernatural Asia――アジア映像における自然性と超自然性」を開催しました。

本シンポジウムでは、日本およびアジアの映像文化における「自然性」と「超自然性（Supernatural）」「不自然性」を基本テーマに、現在の日本やアジアで、どのように自然性と超自然性が取り上げられるかをさまざまな形で考え、議論しました。

シンポジウムの冒頭で、学校法人城西大学日本／アジア映像研究センター所長かつ南カリフォルニア大学映画技術研究科学科長の水田リピット堯所長が「現在、東・東南アジアの映画産業において、ホラージャンルは大きな注目を浴びています。今日は、映画上映や講演会、ワークショップ等を通じて、いかに自然そして自然性を定義するのかを考えたいと思います」と挨拶しました。

シンポジウムは3部構成で実施され、第1部では、東京紀尾井町キャンパス1号棟地下ホールにて、映画「リング」「リング2」等のヒットで知られる映画監督の中田秀夫氏を迎えて、2005年にハリウッドで公開された同監督の作品「ザ・リング2」の上映会を行いました。上映後、監督がステージで本作品に対する思いや制作にまつわるエピソードなどを語るとともに、映像制作を目指すメディア学部の学生たちとの間で作品に関する活発な質疑応答も行われました。

午後の第2部からは会場を3号棟に移し、Felicidad Bliss Lim 准教授（University of California, Irvine）による「Aswang Transmedia」と、井上間従文准教授（一橋大学）による「Theresa Hak Kyung Cha's Hauntology」をテーマにした講演会が行われました。

その後の第3部では「Supernatural Asia」をテーマに、水田リピット堯所長、日本／アジア映像研究センターの主任研究員でもあるAaron Gerow教授（Yale University）とMark Nornes教授（Michigan University）に、第2部で講演を行ったFelicidad Bliss Lim准教授と井上間従文准教授も加えてワークショップが行われ、シンポジウムのまとめとして「自然性」と「超自然性」「不自然性」をめぐり、活発な議論が展開されました。

シンポジウムに参加した約150名の映画関係者、国内外の研究者、城西国際大学メディア学部の学生らは、皆熱心に講演会、ワークショップでの話に耳を傾けていました。

上映後に作品について語る中田秀夫監督（右）

地下ホールの様子

第3部のワークショップの様子

講演会
シンポジウム

香港城市大学 Way Kuo 学長が来学、講演を開催

日時：2013年4月30日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年4月30日、香港城市大学（City University of Hong Kong）の Way Kuo（郭位）学長が東京紀尾井町キャンパスに来学され、講演が開催されました。

今回の来学は、昨年10月に水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学訪問団が同大学を訪問し、Kuo 学長らと学術交流協定を締結したことを受けて実現したものです。

来学した Kuo 学長、C. T. Liu（劉錦川）名誉教授らは3号棟国際会議室にて水田理事長をはじめとする本学執行部メンバーらと会見し、協定に基づく今後の具体的な交流活動内容等について話し合いました。

その後、1号棟地下ホールにて Kuo 学長の「Reliability and Survivability ～ Nuclear Energy and the Future of Energy ～（信頼性とサバイバビリティ～原子力とエネルギーの未来～）」と題した講演が行われました。Kuo 学長はエレクトロニクスシステムにおける設計および信頼性モデルリング、原子力エネルギーの研究者として世界的に有名で、講演では東日本大震災以降あらためて原子力発電の是非が議論されている中、原子力や自然エネルギーをはじめとする各種のエネルギーに対する、さまざまな科学的観点から見た評価の必要性について、分かりやすい例を挙げながらお話がありました。

また、本学と香港城市大学とのプロジェクトとして Kuo 学長が執筆された、東日本大震災の福島第一原発事故に関する著作の日本語版を本学にて発行する計画も進んでいます。

講演会終了後、一行は先日開設した3号棟の各フロアを見学し、香港城市大学との共通点が多いメディア学部関連の最新施設や化石ギャラリー等を特に熱心にご覧になりました。

なお、Kuo 学長一行は、翌日5月1日に城西国際大学に来学され、各学部長らと今後の学術交流内容に関する打ち合わせを行った後、国際グリーンマテリアル研究所や国際交流ラウンジ、国内外の学生たちが英語でコミュニケーションする場であるイングリッシュフロア、情報科学研究センター、生涯教育センターなど主要施設を見学しました。また、学内のTVスタジオにて、留学生による英語のインタビューを受けました。

香港城市大学は、1984年に設立された、香港の九龍に本部を置く公立大学です。経営学部や法学部、メディア学部、エネルギー・環境学部など7学部があり、特にメディア関連が有名です。約2万名の学生を有しており、関連する業界との連携を通じて学生にさまざまな実務経験を積ませる機会を提供することに重点を置いています。また、QS世界大学ランキングの2012-2013年版では95位にランクされています。

講演する Kuo 学長

講演会の様子

講演後、学生から花束を贈られる Kuo 学長と Liu 名誉教授

イングリッシュフロアで学生らと交流

講演会
シンポジウム

泰日経済技術振興協会会長を迎え、第2回ASEANフォーラムJOSAIを開催

日時：2013年5月7日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学イノベーションセンターは、2013年5月7日、泰日経済技術振興協会（Technology Promotion Association (Thailand-Japan)：略称TPA）のプラユーン・シオワッタナー（Asst. Prof. Prayoon Shiowattana）会長を講師に迎えて、第2回ASEANフォーラムJOSAIを東京紀尾井町キャンパス1号棟地下ホールにて開催しました。

本年は日・ASEAN友好協力40周年にあたり、本学も政府の記念事業に登録して「ASEANフォーラムJOSAI」と銘打った記念講演会を通年で実施しています。第2回目となる今回は同年3月にマレーシアの本学姉妹校から講師を招いて開催した第1回に続くものです。

講演するプラユーン会長

TPAは、元日本留学生・研修生が中心となり、タイ国の経済発展のため、日本からタイへの最新技術と知識の移転・普及、人材育成を行うことを目的に1973年に設立された公益法人です。設立以来、日本の産業育成のノウハウを用いた産業セミナーや工業計測、語学講座など、タイの中で日本の生産、生産管理技術を導入し、着実に成果を上げています。また、同協会は「日本型ものづくり大学」を目指して2007年に設立された泰日工業大学（Thai-Nichi Institute of Technology）の母団体でもあります。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。その一環として、2012年10月にTPAのプラユーン会長が来学し、水田宗子理事長と「連携協力に関する合意書」を締結しました。そしてTPAとの締結が契機となり2013年1月にはバンコク大学（Bangkok University）、4月にはランシット大学（Rangsit University）と学術交流協定を結ぶなど、タイの大学との交流を深めています。

今回のフォーラムでは国際交流強化の一環として、本学とタイの大学の交流強化に多大なお力添えをいただいているプラユーン会長を講師にお招きし、「日・タイ協力の成功例と今後のASEAN工業発展への貢献」と題した講演を開催することとなりました。

レセプションで挨拶するシントン・ラーピセートパン駐日タイ大使館公使

レセプションで挨拶する岡崎久彦元駐タイ大使

講演に先立ち、水田宗子理事長が挨拶をし、一般社団法人日・タイ経済協力協会顧問の愛甲次郎氏がプラユーン会長を紹介しました。講演では、TPAの設立目的や経緯、「教育および人材育成が社会経済発展に最も重要である」という信念に基づき、これまでプラユーン会長が40年にわたって心血を注いでこられたTPAの事業発展の様子、そして最大の成果である泰日工業大学の取り組みなどが紹介されました。そして、日・タイ協力と今後のASEANでの展開の可能性等についてもお話がありました。

レセプションで挨拶する林康夫 JETRO 顧問

レセプションで挨拶する宮本四郎日・タイ経済協力協会顧問

講演会には、元首都大学東京理事長の高橋宏氏、元法務大臣の杉浦正健氏、タイ大使館のシントン・ラーピセートパン（Singtong

Lapisatepun）公使、元駐タイ大使の岡崎久彦氏、JETRO顧問の林康夫氏、日・タイ経済協力協会顧問の宮本四郎氏、法政大学学事顧問の清成忠男氏らをはじめとする、日・タイおよびASEANの政府・経済関係者、学術研究者等が多数集まり、皆熱心にプラユーン会長の講演に耳を傾けるとともに、講演会後のレセプションではこれまでの日・タイ経済協力の成果および今後のさらなる発展に関して活発な議論と情報交換が行われました。

講演会
シンポジウム

城西国際大学創立20周年記念日韓シンポジウムを開催

日時：2013年5月18日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2013年5月18日、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所、韓国文化研究センター主催、城西国際大学国際人文学部の共催により、東京紀尾井町キャンパス地下ホールにて日韓シンポジウム「グローバル化の中の『韓流』『日流』」が開催されました。

『冬のソナタ』に代表される韓流ブームから10年、韓流ブームは日本と韓国に何をもたらしたのか、テレビドラマ等の映像作品はグローバル化時代においてどのような役割を担うことができるのか、韓国と日本のドラマの中で女性たちはどのように表現されているのか等について両国の研究者が意見を交わし、日韓文化の現在について理解を深めました。

４名のパネリストたち（左から鄭氏、川村氏、宇佐美氏、梁氏）

基調講演者、パネリストと本学関係者らによる記念撮影

シンポジウムに先立ち、水田宗子学校法人城西大学理事長が開会の挨拶で「韓流文化は、今や世代や性別を超えてアジア、世界に大きな力を発揮しています。本日、日韓の研究者が集まって韓流、日流文化について考えていくことは大変意義深いことです」と述べました。

その後、南仁燁（InYoung Nam）東西大学（Dongseo University）林権澤映画研究所（KwonTaek Im Film Center）所長が「女性の鏡の中へ――韓国フェミニズム映画の現在――」と題した基調講演を行いました。「映画」は、「自我を映す鏡」として考えられてきましたが、フェミニズム映画批評では、この自我は「男根中心主義」によって普遍化されたものであり女性のアイデンティティは疎外され、「鏡」の裏に閉じ込められていると捉えます。こうしたことを前提として、南先生は、「鏡」の中に閉じ込められた女性のアイデンティティを呼び出すような近年の韓国女性映画の作品について話されました。

続いてシンポジウムでは、パネリストとして鄭智泳（JiYoung Jung）准教授（梨花女子大学（Ewha Womans University））が「韓国近代社会における『李朝女性』イメージとジェンダー秩序」について、川村湊（法政大学）が「『韓流』源流と未来」について、宇佐美毅教授（中央大学）が「テレビドラマの韓日文化論」について、梁銀京（EunKyung Yang）教授（忠南大学（Chungnam National University））が「韓流と日流を通したアジア文化共同体」についてそれぞれ発表を行い、和智綏子客員教授（城西国際大学）をディスカッサントに、パネルディスカッションが行われました。

会場には、韓流ファンをはじめ、韓国語を勉強している学生、韓国やジェンダーに関心のある研究者等、学内外から200名近くが集まり、満員となりました。政治的には混迷の続く日韓関係ですが、大衆文化のレベルにおいては、1990年代以降、着実にその交流が深まっており、韓流が単なる「ブーム」で終わらないということ、東アジアにおける新しい文化共同体を構築することができる可能性を確認して、シンポジウムは大盛況の内に幕を閉じました。

なお、シンポジウムには、後援となっていただいた駐日韓国大使館韓国文化院（Korean Cultural Center）院長の沈東燮（DongSup Sim）氏、国会議員の白眞勲氏、日本美術史研究者でハーバード大学教授のメリッサ・マコーミック（Melissa McCormick）氏らが駆けつけ、シンポジウム終了後のレセプションにおける歓談でも大いに盛り上がりました。

講演会
シンポジウム

前東南アジア諸国連合事務総長のスリン・ピッスワン氏を招き、第3回ASEANフォーラムJOSAIを開催

日時：2013年8月24日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学イノベーションセンターは、奈良県と共同で、2013年8月24日に第3回ASEANフォーラムJOSAIを東京紀尾井町キャンパスにて開催しました。東南アジア諸国連合（ASEAN）の前事務総長スリン・ピッスワン（Dr. Surin

Pitsuwan）氏を講師に迎え、「発展する東アジアにおける日本と変化する世界情勢」という題目での講演会を行いました。

今年は日・ASEAN友好協力40周年にあたり、本学も政府の記念事業として「ASEANフォーラムJOSAI」と銘打った記念講演会を、年間を通じて実施しています。今回は、3月にマレーシアの本学姉妹校から講師を招いて開催した第1回、5月にタイのTPA（泰日経済技術振興協会）会長のプラユーン（Prayoon Shiowattana）氏が講演した第2回に続くものです。

講演でスリン氏は、日本とASEANの関係を1960年代からさかのぼり説明され、日本がASEAN諸国に対し常に先頭に立って協力を行ってきたことや、1990年代のアジア金融危機、99年のインドネシアにおける東ティモール問題に対する日本の貢献について話されました。そして、近年中国の台頭など国際情勢は大きく変化してきているが、開かれた地域統合に向けて日本の果たす役割が強く期待されていることや、TPP交渉においても日本の対応に強い関心が集まっている点、日本の経済的な回復基調が喜ばれている点についても説明されました。

最後に、経済発展の過程において、ASEANはこれまで生産基地としての機能を充実してきたが、これからは科学技術の発展とイノベーションが非常に重要であることに触れ、この点についても日本の貢献が期待されると話されました。

講演会終了後は質疑応答が行われ、日・中・韓とASEANの関係や若者間の交流の重要性について活発な議論が行われました。

講演するスリン氏

●周辺図

アクセス インフォメーション
●東京メトロ有楽町線　麹町駅 1番出口より徒歩3分
●東京メトロ半蔵門線・南北線　永田町駅9a番出口より徒歩5分
●東京メトロ丸ノ内線・銀座線　赤坂見附駅D出口より徒歩8分
●JR中央線・総武線　四ツ谷駅より徒歩10分

学校法人 城西大学
城西大学／城西短期大学　城西国際大学
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26　TEL.03（6238）1300
学校法人 城西大学 http://www.josai.jp/
城西大学 http://www.josai.ac.jp/　城西国際大学 http://www.jiu.ac.jp/

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26
TEL 03（6238）1300　FAX 03（6238）1299